

箕島 LIP



箕島LIPとは？

箕島は和歌山県有田市の地区の1つです。有田市は和歌山県北西部に位置し、人口は約3万人です。有数のみかん産地で、みかん鶏や太刀魚、しらすなども特産品です。

箕島LIPは箕島地区を中心に、**有田市社会福祉協議会**と商店会・商工会議所が中心のまちづくり団体「**ワンハート**」の2つの受入先と協働して活動しています。

2021年度活動テーマ

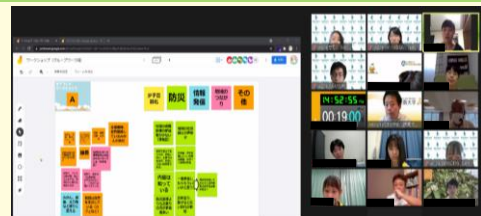
箕島で暮らす多世代の住民による魅力再発見 / まちづくりワークショップ

まちづくりワークショップ

このワークショップは『第3次有田市地域福祉活動計画』の策定過程の1つとして、有田市社会福祉協議会主催で行われました。**多世代の住民**で有田市について話し合い、**住民主体で有田市をより良くするためには何ができるかを考える**ことが目的です。9月と10月に2日間の日程で開催され、中学生から高齢の方まで15名がオンラインで参加されました。

その中でLIPの学生は、行政資料から読み取った**有田市の課題についての発表、アイスブレイクの運営、話し合いの書記**などを担当しました。

ワークショップの最後には参加者・学生の一人ひとりがアクションプランを発表し、自分には何ができるかを考える機会になりました。



1 少子高齢化	2 防災
<ul style="list-style-type: none"> ○少子化：人口減少支援制度はどの地域にもあるが、有田市で子育てしてもらうためにはどのように地域を支えるべきか ○高齢化：地域コミュニティ組織存続の危機 高齢者一人世帯の手助け、介護者の負担軽減のために地域が必要とされることは何か <p>⇒地域で支える環境づくりが必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○市民・学校・企業との連携による「共助」「公助」の意識が低い ○担い手の確保・育成ができていない 例) 消防団員の高齢化 ○危機感が薄れているのではないかと 例) 避難訓練への積極的な参加はできていないのか
3 情報発信	4 地域のつながり
<ul style="list-style-type: none"> ○発信する情報が地域中に行き渡らない イベントが知られることなく終わる事態を防ぐにはどうすればいいか ○ボランティア活動の意義、イベント本来の意味が伝えられていない → イベント感覚で楽しんで終了 → 募金活動の難航、担い手不足を引き起こす 	<ul style="list-style-type: none"> ○気軽に集える場所がある しかし、機能が果たせていない 情報が行き渡らず参加者が増えない <p>⇒○地域のつながりの番運動 ○地域から独立する方が生まれてしまう</p>

箕島LIPアクションプラン

ワークショップを経て箕島LIPが3年後に目指すまちの姿と、その実現のために取り組むことを考えました。

○長期目標〈3年後の年度終了時〉

会話をすることや深くつながっていくことを**交流**とし、一度できたつながりが継続されていて別の場所であった時に気軽に話しかけられる状態を目指す

○1年目：情報受信

 - インターネット講習会

○2・3年目：多世代交流

 - 交流の実態調査、

多世代交流の機会創出、効果検証

ワンハートとの協働

昨年度、箕島LIPから「**折り鶴モザイクアート**」を提案し、今年度はその制作を行いました。

7月には完成品を有田市立病院へ設置することができました。



活動の反省点・改善点

①リハーサルについて

実践的な練習や**トラブルの想定**、**継続メンバーからのアドバイス**が不足していたことで本番で臨機応変な対応ができませんでした。今後は、**余裕のあるスケジュール管理**とともに全員で**トラブルの対応策**を考え、**共有**することに努めます。

②ワークショップ後の振り返りについて

振り返りではそれぞれの求める完成度の違いから**反省点を引き出せない**ことや**反省点を次に活かせない**ことがありました。今後は、事前に**細かな行動目標を決め**全員の足並みを揃え、**反省を対策まで落とし込み**次に繋げることに努めます。

③メンバー間の情報共有について

会議欠席者への対応が不十分であることから内容が伝わりきらないことがありました。

今後は、**会議冒頭に前回の振り返り**を行い、また気軽に質問し合えるよう**LINEの活用方法を見直す**ことに努めます。